

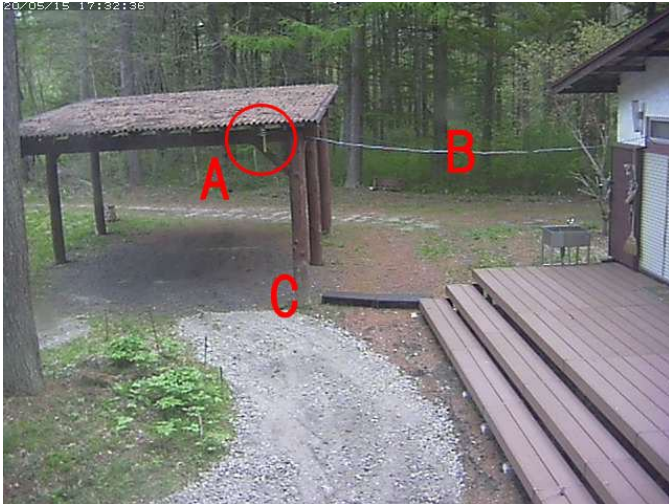
「巢の乗っ取り (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

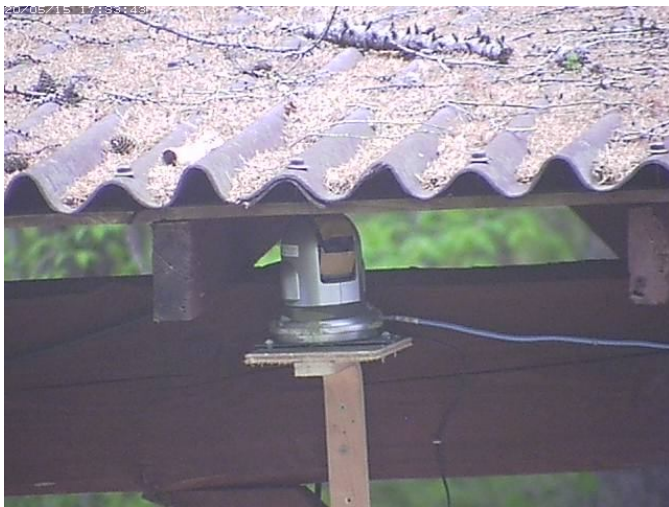
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

遠隔地の自然の現在の状態を観察することは、さまざまな意味がある。理科の授業でも使えるし、多くの人に「自然の営み」を共有してもらえる。それを可能にしているのが、インターネットだ。



アカゲラ (キツツキ) が壁に開けた巣穴を観察するカメラは、写真の A の場所に設置してある。ガレージの軒下だ。B が母屋に通じている LAN ケーブル。耐候性のある、強い皮膜のものを使用している。電源はガレージの脚の基部にある、防水コンセント (C) からとっている。



これがそのカメラだ。実はこの写真も、別のカメラ (浅間山観測カメラ) を遠隔操作して撮影した。軒下の風雨を防げる場所に設置した。予算不足なので、カメラは中古のジャンク品 (3000 円) を買って、自分

でレンズとインターフェースを修理して動くようにした。設置基板も既製品は高価なので手作りである。



カメラは「ネットワークカメラ」と呼ばれ、もともとは「防犯用」である。小さいボディの中に、http (ハイパー・テキスト・トランスファー・プロトコル) サーバーが内蔵されていて、外部 (全世界) から、専用のアドレスとパスワードで接続できる。ズーム、スチル・パン (上下左右の動き)、明るさなどの操作の他、動体感知時のメール通知や、ftp (ファイル・トランスファー・プロトコル) による、遠隔サーバーへの画像転送も可能だ。更に、「外部出力」の機能もあり、例えば、遠隔操作で灯火の ON・OFF も可能で、万能のネットワークカメラといえる。

設置は難しくないが、サーバー設定には、高度な専門知識が必要だ。「ローカル IP アドレス」「グローバル IP アドレス」「ポート番号付与」「静的 IP マスカレード」それにルーター設定の知識などだ。私は職場で情報部に長くいたので、これだけは簡単にできる。



最初に現れたのは「ヤマガラ」だった。動画で観察していると、巢草のコケを盛んに運び込む行動が見られたので、内部に営巣していることは間違いない。